資料４

令和６年度　福岡市発達障がい者支援地域協議会

発達障がい者地域支援マネジャーによる「地域づくり」
～九州国立博物館における
「あんしんマップ・ガイド」作成への支援を通して～

福岡市社会福祉事業団
福岡市立発達障がい者支援センター
（ゆうゆうセンター）

発達障がい者地域支援マネジャーとは

- 事業所等が抱える困難ケース等に対する必要な支援や助言等を行う

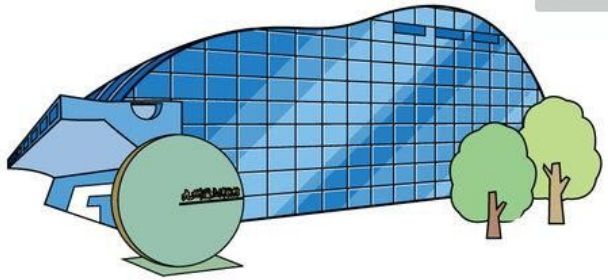
- 地域において発達障がい児（者）の特性に沿った対応ができるよう関係機関等との連携を図り、地域における総合的な支援体制整備への必要な相談、助言等を行う

機関コンサルテーションとは

- 種別を問わず幅広い機関を対象とする

支援関係機関

様々な機関



発達障がいの特性に基づいて必要な助言や支援

九博への支援について

当センターのホームページを見た九博職員より「発達障がいの特性のある人が安心して来館できるよう“センサリーマップ”を作成したい」と、支援依頼があった。

- ヒアリング
- 現地の確認
- マップ・ガイドの検討
- 職員研修の実施

来所や訪問、メール等でやりとりを重ね、都度九博のニーズに対して柔軟に対応

結果

- センサリーマップの完成

  「あんしんマップ」：刺激の影響を受ける可能性がある場所を明記

  「あんしんガイド」：館内ルールや楽しみ方を文章や図、写真にて解説

- 研修の実施

  研修の前後に実施したアンケートでは研修後に良好な回答が増えた

本事例を通してカームダウンスペースの設置に向けて新たに多部署で構成するワーキングチームが発足。次のステップへ向けて自走中

※当センターも随時オブザーバー参加し、継続してコンサル実施中

考察

マップ及びガイドの作成、研修の実施を通して九博職員全体に発達障害の**理解**が広がる

次のステップ（カームダウンルームの設置）へ向けて**自走**

依頼者のニーズに合わせた柔軟なコンサルが具体的で実用的なマップ・ガイドの完成と自走に結びついたのではないか

障害のある人の**豊かな地域生活**を支える施設の
一つとなることが期待される

まとめ
～事例を通して地マネによる地域づくりとは～

地域の人々の理解や自発的な動きが必要

地域の「様々な機関」への
働きかけ（普及啓発）

＋

地域の「様々な機関」
に対する柔軟な対応
（機関コンサル・機関連携）

→ 発達障がいの理解と配慮が自然に存在している

→ 真の多様性が尊重される社会

地マネの現状と今後

機関
コンサル

公民館での
出前講座

学校教員向
け出張相談

困難事例
への対応

積極的に地域に出向き、地域の様々な機関と協働し、
地域づくりを支える

ご清聴ありがとうございました